

躍進への布石、緒につく

- 1 新県政推進の機構整備なる
- 2 十和田八幡平国立公園「網張地区」国民休暇村に指定さる
- 3 小麦日本一、天皇杯受賞に輝く
- 4 花巻空港、竣功す
- 5 胆沢川総合開発事業の全事業完成す
- 6 肉牛種「ハーホード」の試験導入きまる
- 7 通岡有料道路、竣功す
- 8 地熱発電所の建設工事着手さる
- 9 「岩手国体誘致運動」展開さる
- 10 身体障害児童の療育センター完成す

新県政63年ビッグ・テン

ことしも余すところ、あとひと月。県政の年輪がまたひとつふえた。

しかもことしは、県民の期待と興望を担って発足した千田県政の第一年目に当たるが、果して県政は、どのような足どりを辿ったのだろうか。そうした一年間の回顧を通して新たな年への県政進展に資そうと、さきごろ開かれた庁議で、県勢ビッグ・テンが選ばれた。

千田知事は、就任らしい。住民に直結した県政を標榜し、七つの政策(▼住民に奉仕する県政▼県民のしあわせを高める福祉行政▼農山漁村に温かい県政▼中小企業の栄える県政▼青少年に明るい環境▼地域開発の推進と後進性の脱却▼平和で美しい郷土の建設)を基本方針に掲げた。そして、県政運営の具体的目標を①道路網の整備②農漁業の構造改善③社会福祉の向上④観光開発⑤中小企業の振興⑥教育の振興の六つにおき、これを新県政推進の柱とした。このビッグ・テンは、そうした県施策の、いわば、ことしの決算でもある。選ばれた十項目の内容は別項のとおりだが、今年はこの数年以来相次いだ大災害などの暗い面もなく、いずれも明るい面が占められている点が目玉される。

総じて、県民期待のうちにスタートした一九六三年の県政はきわめて順調な方向を辿り、「新県政進展への布石が緒についた年」ともいえよう。

1 新県政推進の機構整備なる

千田知事による新県政を強力に推進するため、県の行政機構整備を行ない、いままでの六部三局一室四一課一事務局を七部二局一室四五課一事務局に改め、一月一日から発足しました。この行政機構整備の内容は、つぎのとおりです。

一 県行政の総合的、効率的な運営をはかるため、企画部を設置しました。

県の行政が総合的、効率的に行なわれるためには、その計画の段階において十分な検討と調整が行なわれる必要があります。企画部は、県の行政におけるこれらの面を強化するために設けたものです。

企画部では県行政の長期かつ総合的な企画、とくに定める重要施策の企画・総合調整・地域開発および統計に関する事務を処理することとし、総務課、企画調整課、開発課、統計調査課の四課を設けました。また企画部の設置と関連し、各部署との連携をはかるため、各部署の次長に部局の企画・調整の事務を担当させることにしました。

二 県行政運営の重要事項を審議するため、庁議を設けました。

庁議は、知事、副知事、出納長および各部の部長をもって構成し、県行政運営の基本方針、重要施策の決定・総合調整

など、県行政の重要事項を審議するため設けたものです。

三 観光課を独立させました。

本県は豊かな観光資源に恵まれながら未開発の状態にあります。この未開発の観光資源を開発することは県行政の重要課題であり、こんごの観光行政を強力に推進するために観光課を設置しました。

四 東京事務所強化拡充をはかりました。

東京事務所は、県行政についての中央機関との事務連絡を行なうために設けられたものですが、単にこれだけでは不十分なので、企業誘致や産業開発に関する調査・情報の収集・経済動向調査なども行なわせることとし、その体制を強化するため、総務課、行政連絡課、産業課を設け、あわせて物産観光事務所を吸収しました。

2 十和田八幡平国立公園「網張地区」国民休暇村に指定さる

優れた自然美を備えながらも、本格的な観光開発の手が打たれないまま眠っていた八幡平に、ようやく脚光を浴びる時期が訪れました。それは南八幡平の網張温泉を中心とした地区が、厚生省から国民休暇村の指定を受けたことです。

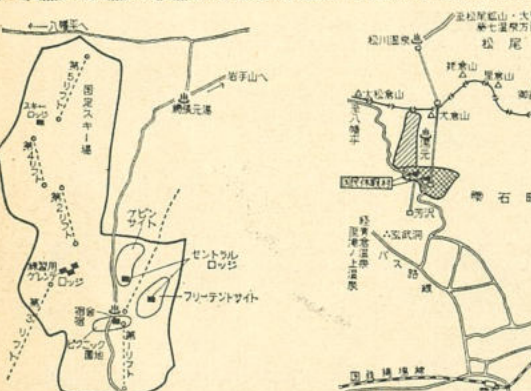
国民休暇村というのは、国が国民大衆のもっとも希望している快適で費用が安く、しかも清潔な宿泊施設を中心とする

利用施設を、集団的に整備した保健休養地です。いわば国民に「健全なこいの場」を提供しようとするものです。

こんど指定になった網張地区は、八幡平、裏岩手の連峰を仰ぎ、南方前面に葛根田扇状地、小岩井農場を前景に、盛岡花巻間の北上平野をのぞみ、夜には雫石盛岡、日詰、花巻方面の灯が明滅する夜景が一望できる展望地であるほか、その周辺には小岩井農場、鷹や鶯宿の温泉地、ゴルフ場などを含む保健休養地として絶好な環境をもっています。

この予定地域は、およそ二七七畝で、明春から施設の建設に着手し、数年後にはおよそ七億円を投じて国民宿舎、ロッジ、野営場、スキーリフト、ロープウェイ、ピクニック園地などが設けられることになっており、遠からず面目を一新した全国有数の一大観光レクリエーション地帯が実現することになります。

本県の観光開発が、県政の重要な施策としてとりあげられている折柄、こんどの指定は、観光面を通じて、本県の後進性を打ち破る糸口になるものと思われま



〔国民休暇村の構想〕

〔表紙写真は冬の八幡平〕

小麦日本一、 天皇杯受賞に輝く

第二回農業祭が一月二、三の両日東京で催されましたが、この農業祭で東磐井郡藤沢町黄海の須藤勇平さん（五四才）が、天皇杯を受賞しました。

この農業祭は、農林省と日本農林漁業振興会が共催で行なう農業関係の最大の行事で、全国民に農林漁業を認識させ、



【天皇杯を受賞した須藤さん。向って左から須藤さん。同夫人】

また農漁民の生産増大、経営改善の意欲を高めるために行なうものです。この行事の一つとして、前一カ年間に農林大臣賞をうけた人のなかからもっとも優れた人を選んで天皇杯を授与することになっており、こんどの農業祭で須藤さんが受賞したものです。

須藤さんは昭和三七年に、全国小麦作改善競争会で、実に県の平均反収の約五倍にあたる一、〇一〇・六菰の収量をあげ、全国一位になった業績が認められたものです。須藤さんの小麦づくりは、ドリル播きによる新しい方法で、彼がもっとも苦労したのは土作りとのこと。

小麦を作った畑は北上川と黄海川の合流点に近く、沖積土壌で生産力の高い優れた土壌です。彼は、このよく肥えた土に毎年、多量の落葉を混ぜた完熟堆肥を施しており、栽培にあたって細かい注意を払っています。

品種はドリル播きに適したキタカミコムギを使い、種子は彼自身が採種圃をもっているもので、そこからとっています。そのほか麦踏みも四回も行ない、野ネズミ駆除を徹底的に行なっています。

須藤さんは昭和三〇年頃から、いろいろな競争会・共進会で入賞しており、こうした努力が結ったものと思われま

花巻空港、竣工す

本県の産業経済と文化の発展・向上を推しすすめるため、空の交通を開発整備することが非常に重要な施策となりました。この目的を達成するため、県では花巻市宮野目に第三種空港を建設することを決め、昭和三六年一月に工事に着手し、二年間の才月とおよそ二億七、〇〇



【いわての空の交通をうけもつ花巻空港】

〇万円（市負担分を除く）の費用を投じ一二月下旬に完成し、開港式を挙行する運びとなりました。

この花巻空港の施設の種別、規模のあらましはつぎのとおりです。

- ▽空港の総面積 三三〇、〇〇〇平方尺
- ▽滑走路の延長 一、三〇〇尺
- ▽滑走路の巾 三〇尺
- ▽ターミナル 三〇八・五平方尺
- ▽駐車場 三、四〇〇平方尺

この空港の完成によって、本県と東京の間は、およそ一時間四〇分で結ばれることになり、本県の交通事情が一步前進することになりました。

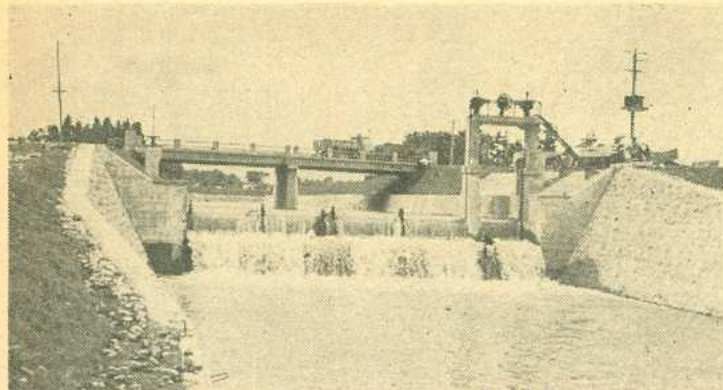
このことは近代交通の達成が、本県の長い間の宿願であっただけに、画期的な意義をもつものといえましよう。

この花巻空港は地方航空路すなわちローカル線の空港で、県が管理する第三種F級空港ですが、旅客輸送をおもに行なうほかに、ニュースの取材や農薬の散布航空測量、観光、エヤーバスなどのためにも利用されることになっております。

つまり以上の目的のために、こんご多くの航空機が花巻空港を発着し、その利用度が高まるものと期待されます。花巻空港の竣工は、前進する本県の将来に多くの貢献をもたらすことでしょう。

胆沢川総合開発事業の 全事業完成す

この事業は北上特定地域の開発の一つとして行なわれたもので、胆沢川上流に昭和二八年度に完成した石淵ダム、二九年度に完成した電源開発公社胆沢川第一発電所、三二年度完成の県営胆沢川第二発電所などを母体として、農業水利、開



【近代農業の布石となった胆沢川総合開発事業】

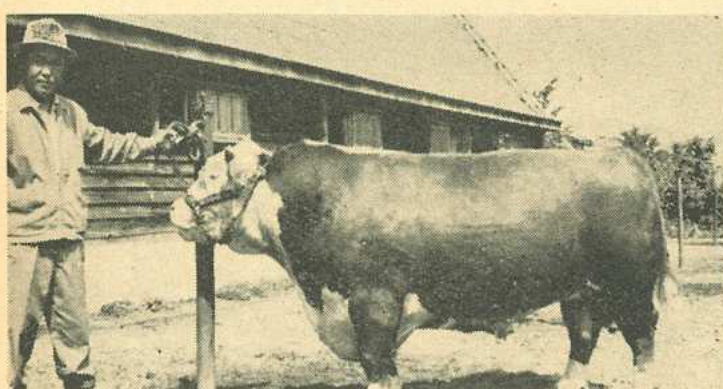
全事業完成す。事業です。

つまりこの事業は国営と県営事業が一体となった形で行なわれたもので、第一発電所からの水を県営胆沢川第二発電所で取入れ利用（取水量毎秒一六立方尺）し、さらにそれを鉄管路分水施設（最大取水量毎秒二、三三立方尺）から、延長約五、七〇〇尺の導水幹線水路と一号から六号に至る延長約二六、〇〇〇尺の地区内幹線水路に分水し、農業用水として供給しています。また、昭和二〇年度から食糧増産緊急開拓事業としての開畑地区も含め、三四年から胆沢開拓建設事業の一つとして三七年度までの間に開田九一〇・五四畝、開畑八三二・五四畝を機械施工で完了しました。

この事業費は二億九、〇〇〇万円、入植の二九四戸は戸当り田二・二〇畝、畑〇・三〇畝、増反は一、三〇七戸で戸当り田〇・四一畝、畑〇・二八畝の配分を確保しており、その生産効果はおよそ四〇五万筈（二七、〇〇〇石）の増産量が見込まれています。

そのほか県営の土地改良事業としてはおよそ二〇億円の事業で、旧田七、四〇〇畝のかんがい排水を行なうなど、総合的な経済効果が、この事業の完成によって果されるわけです。

肉牛種「ハーホード」の 試験導入きまる



【肉牛の質的向上をはかるため試験導入されるハーホード】

全県酪農を県政の重点施策としている本県では、九月県議会で肉牛種「ハーホード」を本年度中に試験導入することを可決しました。このハーホード牛は一〇頭輸入されますが、その原産地は英国のハーホード州であり、一七四五年から一八一五年の間にベンジャミン・トムキン

スの手で生み出された肉用の品種です。その大きさは英国産の肉用ショートホーン種と同じで、その毛色は濃褐色で顔と胸、下腹部が白色となっています。

また、体型は矩形で完全な肉用タイプとなっており、とくに中軀、後軀が巾・深みとも十分で、枝肉歩留がよく高いといわれ、その肉質は優良です。

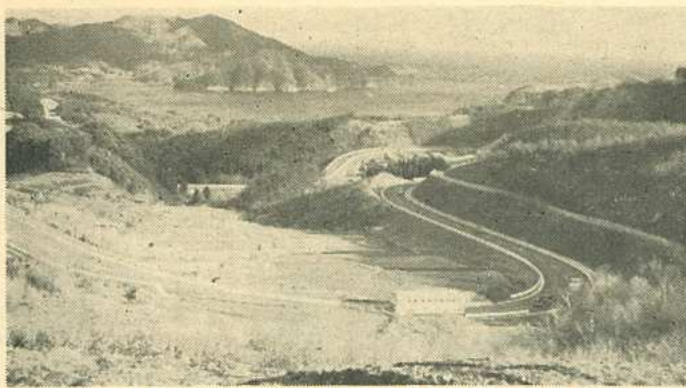
ハーホード牛は、かつて明治年間に導入され、本県の肉牛改良に貢献しましたが、こんどふたたび導入されることになったものです。この牛は粗食に耐え、強健で耐寒性強く、年中放牧には好適の品種として高く評価されています。

県では、これらの特性からみて、広大な牧野を背景とした省力生産が可能なので、雑種強勢を利用した、本県在来種（とくに日本短角種）との一代雑種の育成による優良肉用牛の作出、年中放牧、肥育技術体系の確立のための試験を行ない、山間地での経済的な肉牛飼養形態を究明する方針です。

ハーホード牛は現在、北海道、山梨、長野県に輸入されており、自給飼料を基盤とした育成、一代雑種の造成などが考究されていますが、その結果をみてもとくに発育が良好で飼料の利用性の高いことが証明されています。

通岡有料道路、竣工す

県下で二番目の有料道路として「通岡有料道路」が、一月二十九日に開通しました。この道路は大船渡、陸前高田の両市を結ぶもので、昭和三六年に総事業費四億九、〇〇〇万円をもって建設されたものです。



【通岡有料道路は陸前高田・大船渡を結ぶバイパス】

し、大船渡市大船渡町を終点とする延長八、二一〇・八尺、車道幅員六・五尺のアスファルトコンクリート舗装の近代的な道路です。

通岡有料道路は、仙人有料道路について日本道路公団が建設したのですが、この道路の完成によって陸前高田市と大船渡市との距離は、およそ三・二倍短縮され時間的には三〇分の短縮です。

ところで本県の最南端にある陸前高田と大船渡の両市は現在、セメント工業、水産業、農林業を中心とした都市で、豊富な水産物、木材、石灰石などの資源や工業用水に恵まれており、そのうえ天然の良港を有し、こんご大船渡、高田工業地区として、その発展が期待されているところです。

現在までは、この両市間を結ぶ一級国道四五号線は、海岸をう回して断崖、あるいは人家の間をぬっていったため、交通の大きなあい路となっていました。

それだけに通岡峠を越えて、距離と時間を短縮し、安全な運行と輸送力の増加をはかり、沿岸地区の発展に寄与する道路でもあります。さらに、この地域の観光開発にも大いに貢献するものと思われ、ひいては北上特定地域開発の一助にもなる道路といえましょう。

地熱発電所の建設工事着手さる

地熱を利用した発電は、イタリヤをはじめニュージーランド、アメリカなどの国々では盛んに行なわれており、一KW当り一円三〇銭から一円六〇銭程度で、水力発電や火力発電の半分から三分の一のコストといわれています。

わが国では地熱の利用は、温泉開発に限られていましたが、昭和三四年に現在の工業技術院に地熱開発技術審議会が設けられ、九州別府で三〇KWの試験発電に一応成功しましたが、実用化されませんでした。その後、地質調査所が大分、鹿児島、宮城、岩手の各地地熱帯の調査にのりだし、本県松尾村松川地域に有力な開発地点を見出しました。

一方、昭和三十一年から東化工株式会社



【地熱発電は本県ではじめて実用化】

が当地域の調査を行ない、三三年には通

産省で工業技術院と東化工との共同研究として「地熱発電の実用化をはかる」ことを決定し、わが国で最初の地熱発電所の建設がスタートしたのです。

現在では東化工が松川温泉にボーリングした孔径八インチ、深さ三二五尺および四五〇尺の二つの井戸を、深さ一、二〇〇尺まで掘削中です。

しかし、この事業は国家的な事業でもあるので、このたび新技術開発事業団の受託で五、〇〇〇KWの発電所を建設することにになり、本年八月七日に、その起工式が行なわれました。

開発総工費はおよそ四億円で、四十年

度完成の予定であり、将来は四五、〇〇〇KWの発電が可能とみられ本県工業の原動力となることが期待されています。

「岩手国体誘致運動」展開さる

本県ではいま、昭和四二年に開催される第二回国体を誘致するため、強力な誘致運動を展開しております。

▽誘致運動は昭和二八年から

「明るく豊かな住みよい郷土岩手を建設する」ため、体育スポーツを通じて健全な身体を養ない、明朗調達で積極的な

気風をつちかい、これら心身の向上を県民性にまで定着させ、県勢発展の基盤にしようとするのが、岩手国体開催の大きな意義といえます。本県では昭和二八年から国体誘致の気運が盛り上がり、やがて三五年には急激に県民の世論が高まり三八年四月、一五〇万県民の宿願をこめて、正式に立候補を表明したのでした。

しかし、第二回国体の開催希望県が多く、岩手国体誘致実現のためには、なお一そう県民の総力を結集し、積極的に推進しなければなりません。

▽国体開催に県民の総力を結集

そこで国体誘致委員会では九月から、「国体誘致県民運動推進月間」を設け、あらゆる広報媒体を通じて広く県民に呼びかけ、誘致事務局も盛岡市役所に移転独立させ、活動体制を整備して署名運動募金運動など、あらゆる努力を傾けております。

▽国体は新しい県づくり

国体はスポーツの振興に直結するものですが、そのほかに県民性を高める大きな転機ともなります。したがって国体開催の意義はむしろ本県の新しい県づくりともなるものです。その意味から岩手国体開催は、岩手の重要な課題であり成し遂げるべき県民共通の目標といえます。



【岩手国体誘致運動には千田知事も街頭で呼びかけた】

身体障害児童の療育センター完成す

身体障害児童の療育センターとしての県立養護学校、都南学園が名実ともに完成しました。

県立養護学校は、手足の不自由な子どもたちに小、中学校の普通教育をうけさせ、あわせて身体障害を克服して自立のための機能訓練を行なうことを目的に

昭和三七年四月に開校されました。

学校と寄宿舎は障害のある子どもたちの勉強と日常の起居に適した設計がなされ、身の廻りでの世話と教育の一体化がはかられています。そして「自ら障害を克服し、生きるよろこびと力を培う」という教育目標のもとに、教職員・父兄の願いと努力が傾注されております。

定員は一三五名で、隣接の治療施設都南学園内に分室を設けて、学校・学園が協力し合って、し体不自由児福祉センターの機能を発揮しています。

都南学園は、東北で最初のし体不自由児の福祉施設として、昭和三二年二月に開園したものです。

それらしい五〇床の利用率が一〇〇割を示し、三七年度末までに二二六人の児童が入園し、治療や機能回復によって一六六人が退園し、すでに就職している児童も数名おります。

こうしたことから全般に認識が深まり入園待期児童数が増加し、そのため三七年度に五〇ベッドを増床、ついで本年度は設備品、看護婦宿舎を整備し、本年九月から一〇〇床を運営するに至りました。このように学校と学園が一体となって運営されることによって、はじめて県下のし体不自由児の福音となりました。



【県下3,500の身障児童の福音である療育センター】